(財)八尾市文化財調査研究会報告118

弓　削　遺　跡

第９次調査

寝屋川流域下水道飛行場北増補幹線（第３工区）築造工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

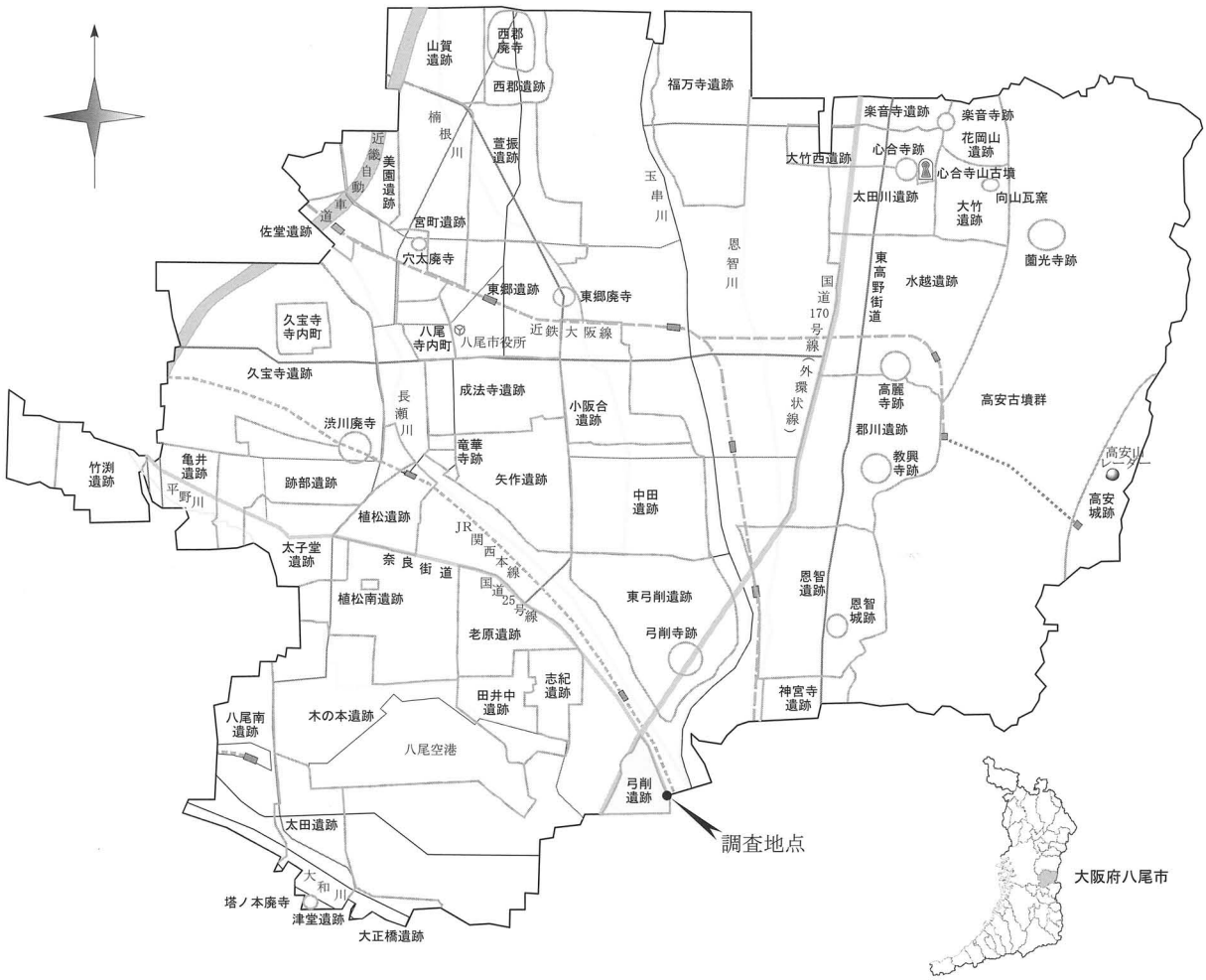
2008年

財団法人　八尾市文化財調査研究会

弓　削　遺　跡

第９次調査

寝屋川流域下水道飛行場北増補幹線（第３工区）築造工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2008年

財団法人　八尾市文化財調査研究会

はしがき

大阪府東部に位置する八尾市は、市域の東部は生駒山地西麓、中央から西部は河内平野の中心部にあたります。この地域は古くから人々が生活の場として盛んに活動しており、現在でもその痕跡が数多く存在しています。

近年、都市開発に伴い各種の土木工事が実施されるのに伴い、破壊され消滅する埋蔵文化財が存在します。それらに対して事前の発掘調査を実施し、記録保存をおこない、先人が残してくれた貴重な文化財を後世に伝承することが我々の責務であると認識する次第です。

今回報告する弓削遺跡は市域南部の志紀町南三丁目周辺に所在する遺跡です。第9次調査は平成20年度に公共下水道工事に伴う発掘調査として実施したもので、遺構・遺物は出土しませんでしたが、調査地がかつて河川の流路になっていたことがわかりました。

最後になりましたが、発掘調査に際してご協力いただきました関係諸機関の皆様に感謝申し上げると共に、発掘調査及び整理作業に携わった多くの方々に御礼申し上げます。今後とも文化財保護に一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年12月1日

財団法人　八尾市文化財調査研究会

理事長　岩　﨑　健　二

例　　言

1．本書は、大阪府八尾市志紀町南三丁目地内で実施した寝屋川流域下水道飛行場北増補幹線（第３工区）築造工事に伴う弓削遺跡第９次調査（ＹＧＥ2008－９）発掘調査報告書である。
1．本調査は、八尾市教育委員会の指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が大阪府東部流域下水道事務所から委託を受けて実施したものである。
1．現地調査は平成20年８月20日～平成20年９月９日（実働４日）にかけて、木村健明・坪田真一・樋口　薫を調査担当者として実施した。調査面積は約13㎡である。
1．内業整理は、現地調査終了後随時実施し、平成20年10月に完了した。
1．本書の執筆・編集は木村がおこなった。

凡　　例

1．本書掲載の地図は、大阪府八尾市役所発行の2,500分の１地形図（平成８年７月編纂）、および八尾市教育委員会発行の『八尾市埋蔵文化財分布図』（平成19年度版）を基に作成した。
1．本書で用いた標高は東京湾標準潮位（T.P.）である。
1．土色については、『新版　標準土色帖』2007年度版　農林水産技術会議事務局監修　財団法人日本色彩研究所 色票監修を使用した。

本　文　目　次

第１章　位置と環境……1
第２章　調査の成果……2
　第１節　調査の方法と経過……2
　第２節　層序……3
　第３節　遺構と遺物……3
第３章　まとめ……3

挿　図　目　次

第１図　調査地周辺図……1
第２図　調査区位置図……3
第３図　断面柱状模式図……3

第１章　位置と環境

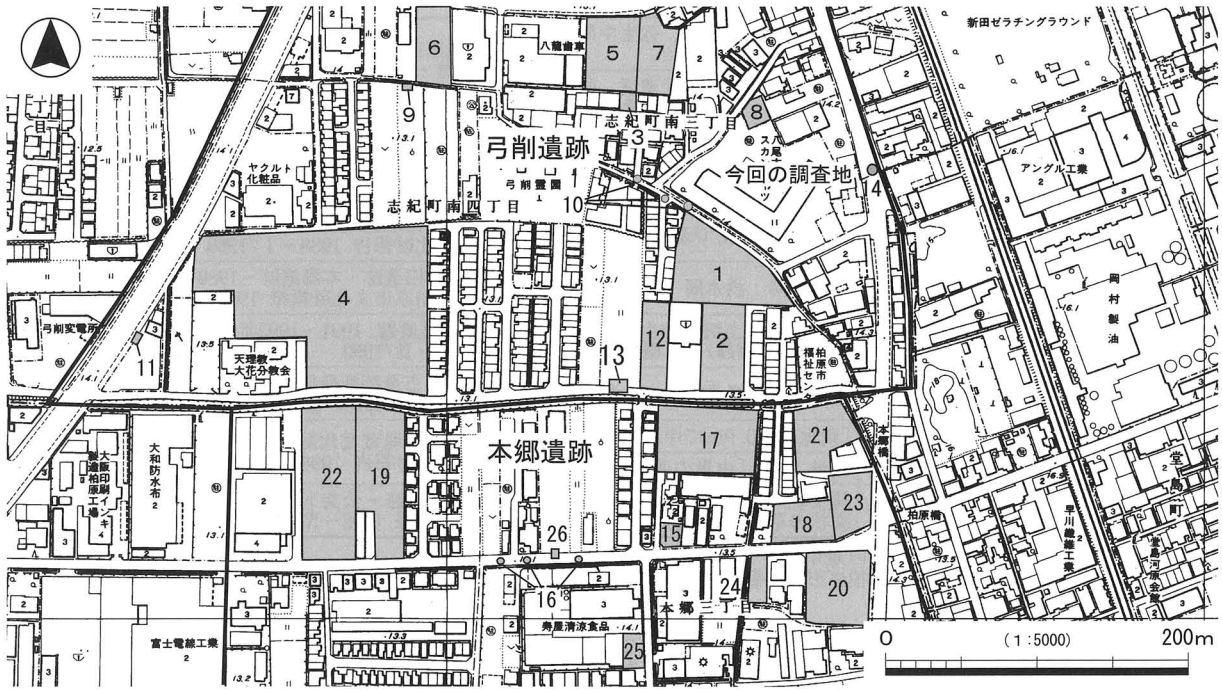
弓削遺跡は八尾市南東部の志紀町南二・三・四丁目、弓削町三丁目に所在し、東西約0.5km・南北約0.7kmの範囲に広がる弥生時代後期以降の複合遺跡である。

地理的には、旧大和川の主流であった長瀬川左岸の沖積地上に位置する。周辺には北西に志紀遺跡・田井中遺跡・木の本遺跡、長瀬川を挟んだ北東に東弓削遺跡があり、南は市境を挟んで遺跡名が異なっているが、弓削遺跡と一連と捉えられている本郷遺跡(柏原市)が隣接する。

当遺跡内では、大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・(財)八尾市文化財調査研究会、本郷遺跡内では、柏原市教育委員会が発掘調査をおこなっている。

弓削遺跡・本郷遺跡の既往の調査については、第７次調査報告書(第１表参照)に詳細に記されており、また今回の調査地周辺は調査事例が少ないため、簡潔に記すにとどめる。

今回の調査地は弓削遺跡の東端に位置する。周辺では８・10で河川堆積層が検出されているほか、１・２で弥生時代後期の土器、12で奈良時代前半、13で弥生時代中期と奈良時代の土器、５で弥生時代後期の土器と埴輪が出土している程度である。調査区の規模も影響していると思われるが、顕著な遺構は検出されていない。遺構が検出されているのは、これまでのところ、柏原市域と西側に多い状況である。



第１図　調査地周辺図

第１表　周辺の調査一覧表

遺跡	番号	調査名	調査主体	主な成果	文献/発行年
弓削（八尾市）	1	90－533	八尾市教委	弥生後期末：土器	『八尾市内遺跡平成３年度発掘調査報告書Ⅰ』八尾市文化財調査報告25/1992
	2	94－631	八尾市教委	弥生後期末：土器	『八尾市内遺跡平成７年度発掘調査報告書Ⅰ』八尾市文化財調査報告33/1996
	3	98－380	八尾市教委	河川堆積層（弥生土器・須恵器・埴輪）、弥生後期：土器	『八尾市内遺跡平成10年度発掘調査報告書Ⅰ』八尾市文化財調査報告40/1999
	4	99－429	八尾市教委	弥生後期：土器、古墳中期：土坑、古墳中期後半：埴輪、中世以降：井戸	『八尾市内遺跡平成12年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告44/2001
	5	99－524	八尾市教委	弥生中期：土器、弥生後期：溝状遺構・小穴・落込、古墳中期：溝	
		ＹＧＥ2000－３	研究会	弥生後期：土器、古墳後期：埴輪、近世：溝	『八尾市立埋蔵文化財調査センター報告３　平成13年度』/2002
	6	2002－23	研究会	弥生中期～後期：土器・石器	『八尾市内遺跡平成14年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告48/2003
	7	2002－66	研究会	近世以降：溝	
	8	2004－347	研究会	近世以前：河川堆積層	『八尾市内遺跡平成17年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告53/2006
	9	ＹＧＥ2002－４	研究会	弥生後期：土坑	『財団法人八尾市文化財調査研究会報告75』/2003
	10	ＹＧＥ2003－５	研究会	河川堆積層	『財団法人八尾市文化財調査研究会報告78』/2004
	11	ＹＧＥ2007－７	研究会	古墳時代前期後半：落込、古墳時代中期後半：溝	『財団法人八尾市文化財調査研究会報告112』/2008
	12	2007－54	研究会	奈良前期：土器群	『八尾市内遺跡平成19年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告57/2008
	13	ＹＧＥ2008－８	研究会	弥生時代中期・奈良時代：土器	未報告
	14	ＹＧＥ2008－９	研究会	河川堆積層	本　書
本郷（柏原市）	15	81－１次	柏原市教委	縄文晩期：埋甕、古墳初頭・前期：井戸、古墳中期後半：埴輪	『柏原市埋蔵文化財発掘調査概要　1981年度』/1982
	16	83－１次	柏原市教委	縄文中期末：土器、弥生中期～古墳前期：土器	『柏原市所在遺跡発掘調査概報－大県・田辺・本郷遺跡－　1983年度』柏原市文化財報告　1983－Ⅳ/1984
	17	83－２次	柏原市教委	弥生中期中葉：溝状遺構、弥生中期～古墳中期：土器、古墳後期：埴輪	
	18	84－２次	柏原市教委	古墳後期：溝（須恵器・獣骨）	『本郷遺跡・玉手山遺跡－マンション建設に伴う－』柏原市文化財概報　1984－Ⅵ/1985
	19	85－１次	柏原市教委	古墳後期：須恵器・土師器・製塩土器	『柏原市埋蔵文化財発掘調査概報　1985年度』/1986
	20	88－１次	柏原市教委	「現地表下２ｍで遺物包含層を検出」	『柏原市埋蔵文化財発掘調査概報　1988年度』柏原市文化財報告　1988－Ⅰ/1989
	21	89－２次	柏原市教委	中世以降：洪水層	『高井田遺跡・本郷遺跡－1989年度公共事業に伴う－』柏原市文化財概報　1989－Ⅳ/1990
	22	91－１次	柏原市教委	弥生中期：土坑、弥生後期：方形周溝墓・溝（小銅鐸）、古墳中期：竪穴住居	『本郷遺跡　1991・1992年度』柏原市文化財概報　1992－Ⅲ/1993
	23	91－２次	柏原市教委	古墳後期～飛鳥時代末：溝	『柏原市遺跡群発掘調査概報　1991年度』柏原市文化財概報　1991－Ⅳ/1992
	24	94－１次	柏原市教委	「現地表下0.9ｍで中近世の包含層」	『柏原市埋蔵文化財発掘調査概報　1994年度』柏原市文化財報告　1994－Ⅰ/1995
	25	94－２次	柏原市教委	近世：溝、「中世の遺物包含層」	
	26	98－１次	柏原市教委	縄文晩期：土器、弥生後期～古墳前期：溝状の落込み（土器）	『本郷遺跡－公共下水道管埋設に伴う－』柏原市文化財概報　1998－Ⅳ/1999

※　調査主体名称の省略については以下の通り。
八尾市教育委員会：八尾市教委、柏原市教育委員会：柏原市教委、（財）八尾市文化財調査研究会：研究会

第２章　調査の成果

第１節　調査の方法と経過

今回の調査は、八尾市志紀町南三丁目地内で計画された寝屋川流域下水道飛行場北増補幹線（第３工区№５）築造工事に伴うものである。調査地は弓削遺跡東端を南北に走る国道25号線の南行き車線上に位置する。交通量の関係から調査は夜間におこなった。

調査区は到達立孔設置に伴って掘削される部分である。調査区の平面形は直径４ｍの円形を呈し、面積は約13㎡を測る（第２図）。

調査は事前に現地表(T.P.+14.65m)下2.0mまで機械掘削がおこなわれており、ライナープレート３段が設置されていた。発掘調査はそれより下の1.0mを対象に人力掘削と機械掘削を併用しておこなった。その後、現地表下5.0mまで工事に伴う掘削に立会い、遺構・遺物の有無および堆積状況の確認をおこなった。

第２節　層序

調査区内は掘削に際して事前に注入された土壌改良剤の影響を大きく受けており、本来の堆積状況を確認できる部分はほとんど存在しなかった。発掘調査部分では、かろうじてT.P.+11.4～11.7mで黄褐色砂礫層の存在を確認した。立会調査部分ではさらに土壌改良剤の影響が強くなり、調査区のほぼ全体が硬化していた。しかし、その中にも砂礫層が含まれていることを確認した。

第３節　遺構と遺物

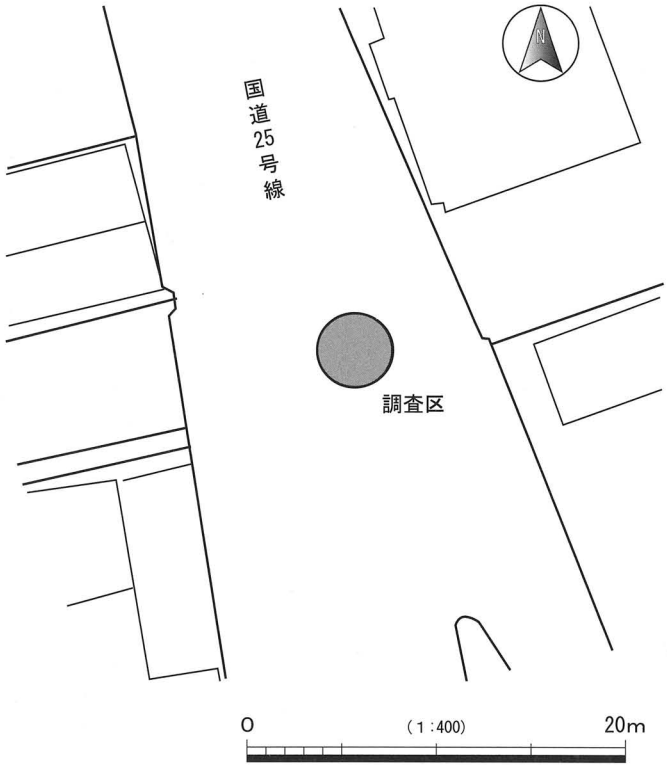
今回の調査では、遺構・遺物ともに検出しなかった。

第３章　まとめ

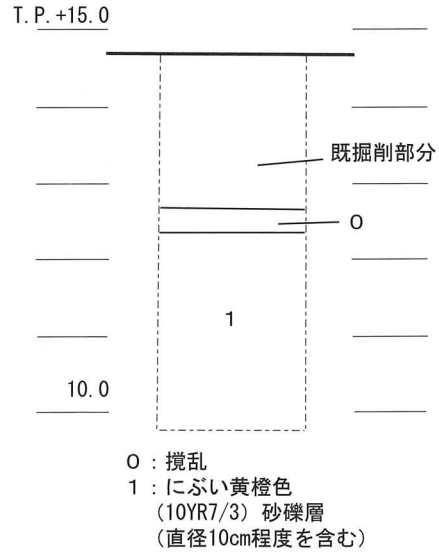
今回の調査では遺構・遺物ともに確認できなかった。

層序は土壌改良剤の影響を大きく受けており、本来の堆積状況を確認できる部分はほとんど存在しなかった。そのため確認した砂礫層も本来の位置を保っているかは定かではないが、発掘および下層確認の立会を通じて調査区内で砂礫層が存在することを確認している。

調査区付近は宝永元年(1704)におこなわれた大和川の付け替え以前は本流が流れていた場所であり、調査区は大和川の流路内に位置していたと考えられる。

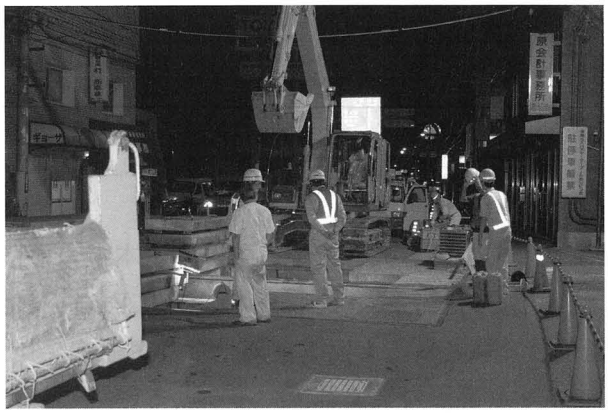


第２図　調査区位置図



第３図　断面柱状模式図（S＝1/100）

図版1



調査風景（南から）

掘削風景

平面精査後状況（東から）

断面（東から）

深掘状況（東から）

深掘断面（東から）

下層掘削状況（東から）

下層掘削状況（東から）

報　告　書　抄　録

ふりがな	ざいだんほうじん　やおしぶんかざいちょうさけんきゅうかいほうこく118
書名	財団法人　八尾市文化財調査研究会報告118
副書名	弓削遺跡第９次調査
巻次	
シリーズ名	財団法人　八尾市文化財調査研究会報告
シリーズ番号	118
編著者名	木村　健明
編集機関	財団法人　八尾市文化財調査研究会
所在地	〒581－0821　大阪府八尾市幸町四丁目58－２　TEL・FAX　072－994－4700
発行年月日	西暦2008年12月１日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
弓削遺跡（ゆげいせき） （第９次調査）	大阪府八尾市志紀町南三丁目（おおさかふやおししきちょうみなみさんちょうめ）	27212	71	34度 35分 40秒	135度 37分 07秒	20080820 ～ 20080909	13	寝屋川流域下水道飛行場北増補幹線築造工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
弓削遺跡 （第９次調査）	集落	なし	なし	なし	調査区は旧大和川の河道内に位置していたと考えられる

財団法人　八尾市文化財調査研究会報告118

弓　削　遺　跡

（第９次調査）

発　行　　2008年12月１日
編　集　　財団法人　八尾市文化財調査研究会
〒581－0821
大阪府八尾市幸町四丁目58番地の２
TEL・FAX 072－994－4700

印　刷　　㈱近畿印刷センター
〒581－0033　八尾市志紀町南２丁目131番地
TEL 072－920－3488
表　紙　　レザック66　　＜175Kg＞
本　文　　ニューエイジ　＜ 70Kg＞
図　版　　ニューエイジ　＜ 70Kg＞

弓削遺跡

財団法人 八尾市文化財調査研究会報告118

二〇〇八年

財団法人 八尾市文化財調査研究会